◆資源・環境対策事業

サンゴ礁生態系保全指導（その１）

八重山農林水産振興センター　鹿熊信一郎

１．目的

八重山を含め、沖縄の沿岸漁業の漁獲量は急激に減少している。原因は、過剰な漁獲が主因であろうが、サンゴ礁漁場の環境悪化も強く影響していると考えられる。このため、水産業サイドからもサンゴ礁の保全を進めていく必要がある。

２．材料及び方法

今年度は、水産庁が開始した環境・生態系保全対策に関する普及指導を主に実施した。この制度は、全国漁業協同組合連合会（全漁連）が受託した技術支援・普及啓発に関する事業と、全国の活動組織が実施する環境・生態系保全活動支援事業（本体事業）に分けられる。

1）全漁連事業の委員会

技術支援を行う環境・生態系保全活動サポート推進事業検討委員会と、普及啓発を行う人と海との共生推進事業審査基準検討委員会等に委員として参加した。

2）オニヒトデ対策関係

石垣市サンゴ礁保全活動組織の活動について普及指導を行った。オニヒトデ対策については、その２にまとめた。

3）事例発表会

２月に博多で開かれた九州ブロックの環境・生態系保全活動支援事業事例発表会に審査委員として参加した。また、中央大会には普及指導員として発表者に同行した。

4）講習会

10 月に恩納村で開かれた技術講習会（サンゴ礁）に講師として参加した。

３．結果及び考察

1）全漁連事業の委員会

全漁連で計６回検討委員会を開き、技術支援や普及啓発の方法について検討した。

2）事例発表会

九州ブロック大会では、八重山オニヒトデ対策協議会長の与儀正氏が発表を行い、中央大会へ選抜された。中央大会は、一般国民への本事業の普及啓発が最大の目的であるため、大臣賞等の選定は行わなかった。

3）講習会

講習会では、パワーポイントによりサンゴ礁生態系の攪乱要因、保全活動、モニタリングの説明を行うとともに、海上で GPS の使用方法等を説明した。

４．今後の課題

1）全漁連事業の委員会

次年度も技術支援・普及啓発に関する委員会に参加する。今年度は、全国の活動組織を技術的に支援する専門家を登録したが、サンゴ礁に関する登録専門家は少ないので、次年度はサンゴ礁学会関係者に呼びかけて登録を依頼する。

次年度は、今年度開始した恩納村、石垣市、伊江村に加えて伊是名村、大宜味村、名護市（羽地・屋我地）が事業を導入する予定である。漁業者が主体となって生態系保全の活動を行う新しい取組のため、担当地域の普及員と連携して、この事業の普及指導を行っていく必要がある。